

貸し出し用

保存用

国土調査課

瀬戸内海観光施設整備地域

土地分類基本調査

玉野

5万分の1

国土調査

香川県・岡山県

1976

序 文

国土調査法に基づく都道府県土地分類基本調査は、地形・地質・土壌等、土地の自然的条件を科学的、総合的に調査し、地域の特性に応じた各種開発計画及び土地利用区分の立案に必要な基礎資料を提供するものです。

本調査は、昭和43年度に国において「丸亀」図幅を実施したのを初年度とし、香川県では昭和45年度から毎年実施しており、今回は「玉野」図幅について調査を行い、ここにその成果をとりまとめました。

本図幅は、岡山・香川両県にまたがる関係上、香川県が事業主体となり、両県が協力して実施したものであります。

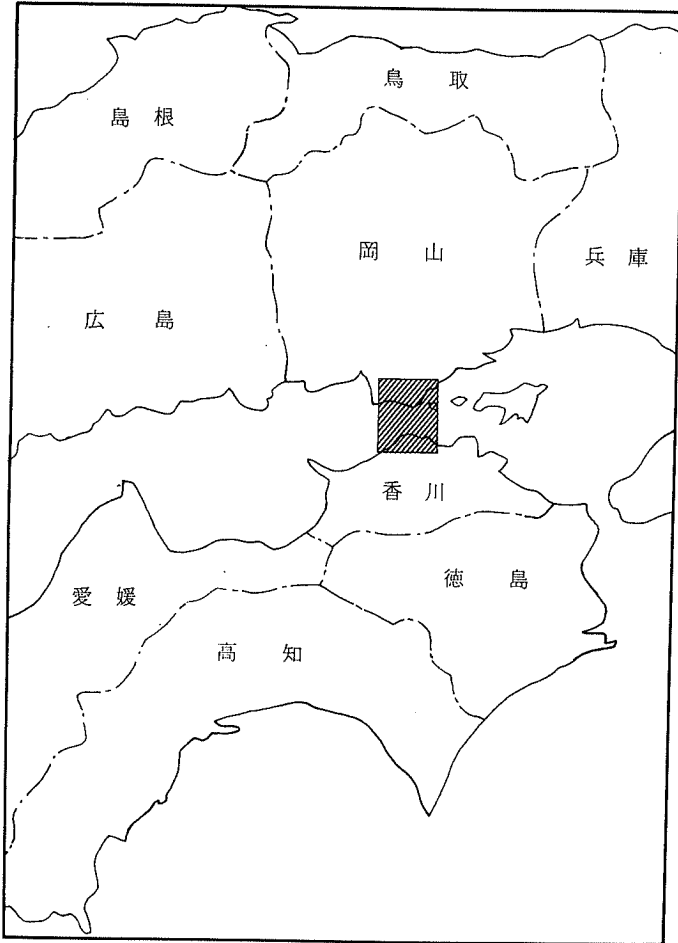
本調査の実施にあたってご協力をいただいた関係者並びに、企画整理をいただいた国土庁土地局国土調査課に対し、深く謝意を表する次第です。

昭和 51 年 3 月

香川県企画部長

平 井 城 一

位 置 図



目 次

序 文 総 論

I	位置および行政区画	1
II	地域の特性	3
1	地勢, 気象	3
2	人口, 世帯数	4
3	交 通	5
4	産 業	5
III	開発の現況と方向	10

各 論

I	地形分類	11
1	地形概況	11
2	地形各論	11
II	表層地質	18
1	表層地質概説	18
2	表層地質各論	18
III	土 壤	22
1	山地・丘陵地の土壌	22
2	台地・低地の土壌	28
IV	傾斜区分	32

V	水系・谷密度	35
VI	防 災	37
VII	開 発 規 制	41

調 査 担 当 者 一 覧

調	整	国土庁土地局国土調査課		
総	括	香川県企画部企画調整課		
協	力	岡山県企画部土地対策課		
地形分類調査		香川大学教育学部	高 桑	糺
		岡山大学教育学部	高 橋 達	郎
表層地質調査		香川大学農学部	斉 藤	実
		岡山大学理学部	光 野 千	春
土 壤 調 査				
（ 林 地 土 壤 ）		農林省林業試験場四国支場		
		岡山県林業試験場		
（ 農 地 土 壤 ）		香川県農業試験場		
		岡山県農業試験場		
開 発 開 連 調 査				
（ 傾 斜 区 分 調 査 ）		香川大学教育学部	高 桑	糺
		岡山大学教育学部	高 橋 達	郎
（ 水 系 ・ 谷 密 度 調 査 ）		香川大学教育学部	高 桑	糺
		岡山大学教育学部	高 橋 達	郎
（ 防 災 図 ）		香川大学教育学部	高 桑	糺
		岡山県企画部土地対策課		
（ 開 発 規 制 図 ）		香川大学教育学部	高 桑	糺
		岡山県企画部土地対策課		

総論

I 位置および行政区画

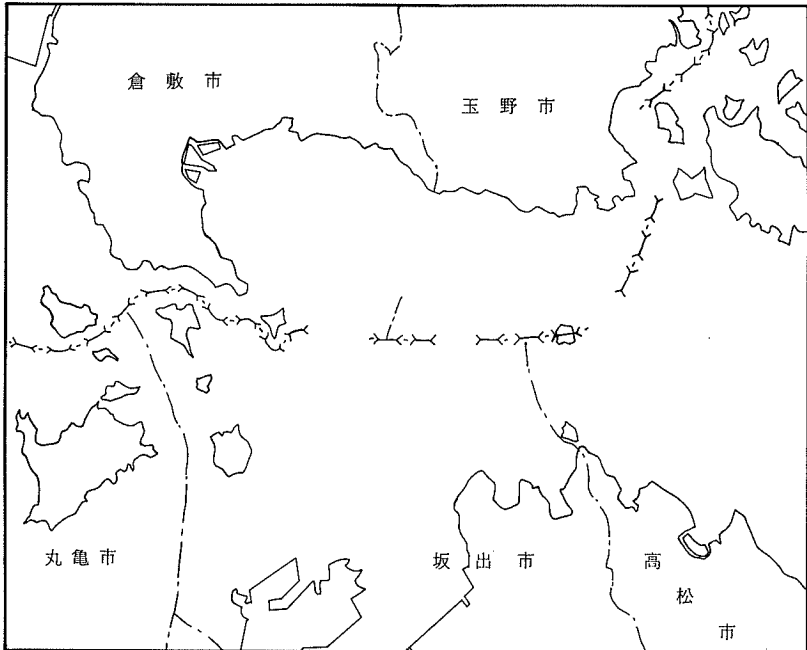
1 位 置

「玉野」図幅は、香川・岡山両県にまたがった瀬戸内海のほぼ中央に位置し、経緯度では東経 $133^{\circ} \sim 133^{\circ}45'$ 、北緯 $34^{\circ}20' \sim 34^{\circ}30'$ の範囲内である。

2 行 政 区 画

本図幅の行政区画は、第1図のとおり香川県域は高松市、丸亀市、坂出市、香川県直島町であり、岡山県域は倉敷市、玉野市の5市1町からなっている。

第 1 図



第1表 図幅内市町別面積

区 分 市 町 名		図 幅 内 面 積		市 町 面 積 (B) Km ²	$\frac{A}{B} \times 100$ (%)
		実 数 (A) Km ²	構 成 (%)		
香 川 県	高 松 市	21.14	13.8	194.40	10.9
	丸 亀 市	8.01	5.2	64.05	12.5
	坂 出 市	27.18	17.8	92.62	15.3
	直 島 町	9.37	6.1	14.20	66.0
岡 山 県	玉 野 市	38.18	25.0	102.93	37.1
	倉 敷 市	48.94	32.1	292.23	16.7
計		152.82	100.0	760.43	20.1

資料：建設省国土地理院による。

Ⅱ 地 域 の 特 性

1 地 勢 ・ 気 象

(1) 地 勢

本図幅の地域は、香川・岡山両県にまたがる備讃瀬戸のほぼ中央に位置し、岡山県の児島半島の南端部と香川県の五色台の北辺部、それに直島諸島の主要部と塩飽諸島の東半分を含み、わずかばかりの沖積平地を除くと、ほとんどの面積を花崗岩あるいは安山岩の島しょ、丘陵が占めている。

瀬戸内海の多島海景観を典型的に示す直島諸島・塩飽諸島とともに、本州・四国の最近接点に浮かぶ大槌島・小槌島の二島のビュートはこの附近の景観を特徴あるものとしている。

島しょと児島半島南端部と五色台の海岸線は屈曲に富み、各所に白砂青松の海岸と良質の港を提供している。

(2) 気 象

本図幅の気候は、温暖寡雨の瀬戸内式気候で、年平均気温は15.5℃と比較的暖く、降雨量は1,000 mm程度である。ただ春から初夏にかけて多発する瀬戸内海特有の濃霧は、海上輸送を途絶させるなど住民生活に支障をきたしている。

香川県高松市、及び岡山県玉野市における気象概況は、第2表のとおりである。

第2表 気 象 概 況

(高松市)

区 分	月 別	年平均 (年合計)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
月別最高気温		19.8℃	9.8	10.3	12.3	19.9	22.6	26.0	31.7	32.3	26.1	20.8	15.6	9.7
月別最低気温		11.0℃	2.0	2.4	2.6	10.0	12.9	17.6	23.4	23.7	18.2	12.4	6.0	0.9
月別平均気温		15.4℃	5.9	6.4	7.5	15.0	17.8	21.9	27.6	28.0	22.2	16.7	10.9	5.3
月別降水日数		152日	17	12	6	18	11	15	3	11	27	18	7	7
月別降水量		842mm	102	50	18	125	69	85	12	60	161	121	18	21

資料：香川県統計年鑑（昭和50年刊行）による。

(玉野市)

区 分	月 別	年平均 (年合計)												
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
	月別最高気温	19.7°C	9.5	8.5	11.5	18.6	23.4	26.8	29.0	32.3	27.0	21.7	16.2	11.3
	月別最低気温	11.4°C	0.1	1.0	3.4	9.3	13.8	18.2	22.7	24.1	19.2	13.9	7.0	3.7
	月別平均気温	15.5°C	4.6	4.8	7.5	14.1	18.8	22.3	25.3	27.7	22.9	17.8	11.7	7.9
	月別降水日数	136日	2	11	18	12	11	12	22	7	12	11	7	11
	月別降水量	^{mm} 1,163.5	14.0	64.0	52.0	146.0	43.0	102.5	229.0	48.0	179.5	195.0	38.5	52.0

資料：日本気象協会岡山支部昭和49年岡山県気象月報による。

2 人口・世帯数

本図幅に關係する市町の人口は、昭和40年には、745,136人であったが、昭和50年には、909,214人となり、22%の増加を示している。

これは、水島及び番の州工業地帯の建設等により人口の転入が行われているものと考えられる。

一方、世帯数は、昭和40年には、183,416世帯であったが、昭和50年には260,023世帯となり、41.8%の大巾な伸びを示しており、人口の伸びを大きく上回っている。

第3表 市町別人口、世帯数

市 町 名		年 別	昭和40年 国勢調査 (A)	昭和45年 国勢調査 (B)	昭和50年 国勢調査 概数 (C)	指 数	
						B/A (%)	C/A (%)
香 川 県	高松市	世帯数	64,393	78,565	90,620	122.0	140.7
		人口	257,716	274,367	298,997	106.5	116.0
	丸亀市	世帯数	15,254	16,651	19,197	109.2	125.9
		人口	58,826	59,214	65,662	100.7	111.6
	坂出市	世帯数	15,243	17,255	19,019	113.2	124.8
		人口	61,293	64,147	67,624	104.7	110.3
直島町	世帯数	1,646	1,688	1,661	102.6	100.9	
	人口	6,378	6,007	5,643	94.2	88.5	
岡 山 県	玉野市	世帯数	18,533	20,399	22,718	110.1	122.6
		人口	71,419	73,478	78,518	102.9	109.9
	倉敷市	世帯数	68,347	90,433	106,808	132.3	156.3
		人口	289,504	354,674	392,770	122.5	135.7
計		世帯数	183,416	224,991	260,023	122.7	141.8
		人口	745,136	831,887	909,214	111.6	122.0

3 交 通

(香川県の交通)

本図幅には、国道は通っておらず、県道としては、主要地方道高松王越坂出線、一般県道としては、大屋富築港宇多津線、北風戸積浦線があり、地域における産業経済活動及び生活基盤の根幹として重要な役割を果たしている。

また、昭和39年には五色台スカイラインが建設され、観光香川の名勝として、五色台をクロンズアップさせた。

海上交通としては、高松港から直島町を経て宇野港に至る高松宮の浦航路があり一方備讃瀬戸航路の要所としては、重要港湾である高松港、坂出港をひかえ流通の拠点として重要な役割を果たしている。

(岡山県の交通)

国道30号線(岡山市～高松市)は、昭和35年以降相次いで拡巾整備され、現在では本四間の大動脈として重要な役割を果たしている。

県道は、主要地方道玉野玉島線ほか3路線があり、主要な都市を結んでいる。

また、昭和45年には県営有料道路鷺羽山スカイラインが建設され、鷺羽山を中心とした観光ルートの設定に大きく寄与している。

海上交通としては、国鉄宇高連絡船及びその他民間フェリーが高松との間に就航しており、一時は本四輸送量の5割のウェイトを占めていたが、山陽新幹線の博多までの開通に伴って芸予ルートが次第に増加していく傾向にある。

4 産 業

(香川県の産業)

農業は、米作を中心に果樹(みかん)、そ菜等が主として栽培されているほか、畜産の経営も比較的さかんである。

しかしながら、農家1戸当たりの経営面積は少なく、兼業農家が多い。

林業については、天然林が大部分を占め、生産性の低い森林が多く、人工林は極めて少ない。また天然林の大半は、経済林としての機能は少なく、林業としては見るべきものはないが、周辺都市の近郊緑地として、主として多様な環境保全に重要な役割を果たしている。

水産業については、沿海漁業を主とし、小規模漁業が大部分を占めている。最近では臨海地域の埋め立て、海水汚濁等の影響を受けるなど、漁場はしだいに荒廃し、加えて若年層の陸上労働への流出等により、総じて伸び悩みの傾向にある。

工業については、坂出市の番の州臨海工業地帯には、石油、アルミ、造船を中心とする重化学工業、また、香川郡の直島町には、銅を中心とする非鉄金属工業が活発に躍動を続けており、県内の第2次産業の心臓部を形成している。

一方、全国でも有数の塩業地帯であった坂出・宇多津地域は、塩業整備により、塩田跡地の有効な利用が当面の課題となっている。

(岡山県の産業)

農業は、米作を中心に果樹、野菜、い草の栽培を主体に、都市近郊農業が行われているが、近年、第2次産業の伸展により産業構造が変化し、生産力の停滞が現われている。

畜産物についても、生産農家が市街地周辺に散在しているため、昭和46年以降はその生産は停滞気味である。

林業については、倉敷市では山林面積の約30%が、玉野市では約55%が保安林で、しかもそのほとんどはせき悪林地であり、雨量が少なく樹木の育成に適していない。

このため、この地区の山林は、せき悪林地の改良により、山に緑を回復することに重点がおかれている。市街化周辺部の山林は、防災あるいは水源かん養のための重要性と、保健休養の場としての意義が大きい。

水産業については、工業開発、港湾整備による海面の埋め立て工場排水、航路の幅そう等により漁場は狭められ、就業者は減少し、漁業条件は年々悪化している。このため、浅海魚介類や海草類の増養殖対策等により魚族等の繁殖を図っている。

工業については、昭和28年から進められてきた水島臨海工業地帯は、重化学工業を主体として殆んど完了をみた。昭和49年度における倉敷市の工業出荷額は、1兆9千8百億円で県全体の61%を占めている。

また、全国的に有名な児島地区の繊維工業をはじめ、金属、い製品等を中心とする地場産業においても、その生産性の向上及び合理的な流通機構の確保を目標に、施設の近代化、協業化及び集団化を図りつゝある。

一方、玉野市においては、造船と製錬の二大産業が市の発展に重要な役割を果た

してきた。

宇野港関連としては、製油、耐火企業、飼料があり、年々順調な伸びを示している。

その他学生服、ゴルフボール等の産業も、地域の経済発展に寄与している。

第4表 農業就業人口・農家戸数

市町名		昭和40年(A)		昭和45年		昭和50年(B)		B/A (%)	
		戸数	人口	戸数	人口	戸数	人口	戸数	人口
香 川 県	高松市	11,233	31,976	12,884	39,588	12,203	35,719	108.6	111.71
	丸亀市	4,386	11,967	4,065	11,436	3,804	10,241	86.7	85.6
	坂出市	4,842	13,061	4,652	13,713	4,349	12,581	89.8	96.3
	直島町	255	632	207	519	191	431	74.9	68.2
岡 山 県	倉敷市	16,111	28,447	14,856	23,698	13,784	16,803	85.6	59.1
	玉野市	3,011	4,979	2,841	4,385	2,529	3,353	84.0	67.3
計		39,838	91,062	39,505	93,339	36,860	79,128	92.5	86.9

資料：昭和40年、50年は農業センサス、45年は世界農林業センサスによる。

第5表 土地利用の概況（昭和50年）

（単位 ha）

市町名		総面積 (A)	耕地計 (B)	田	畑	樹園地	山林	耕地率 B/A
香 川 県	高松市	19,440	6,283	4,968	349	966	4,336	32.3
	丸亀市	6,405	1,704	1,536	83	85	1,987	26.6
	坂出市	9,262	2,247	1,204	173	870	2,949	24.3
	直島町	1,420	41	14	19	8	981	2.9
岡 山 県	倉敷市	29,223	6,599	5,092	894	613	1,935	22.6
	玉野市	10,293	1,272	1,014	143	115	805	12.4
計		76,043	18,146	13,828	1,661	2,657	12,993	23.9

資料：1975年農業センサスによる。

第6表 農業粗生産額（昭和49年）

（単位百万円）

市 町 分 名	区 分 名	粗 生産額	耕 種				畜 産				
			計	うち 米	うち 野 菜	うち 果 実	計	うち 肉用牛	うち 乳用牛	うち 豚	うち にわとり
香 川 県	高松市	10,918	8,222	4,654	1,402	845	2,696	503	607	645	919
	丸亀市	3,534	2,634	1,667	548	164	900	37	20	171	667
	坂出市	4,433	3,381	1,308	704	972	1,052	23	118	276	632
	直島町	48	20	3	11	2	28			22	6
岡 山 県	倉敷市	12,142	9,997	5,310	2,400	1,293	2,143	30	508	428	1,157
	玉野市	2,066	1,733	1,118	297	234	332	49	128	62	92
計		(100.0) 33,141	(78.4) 25,987	(42.4) 14,060	(16.2) 5,362	(10.6) 3,510	(21.6) 7,151	(1.9) 642	(4.2) 1,381	(4.8) 1,604	(10.5) 3,473

資料：生産農業所得統計による。（ ）内の数字は%を示す。

第7表 産業別就業人口（昭和45年）

（単位 人）

市 町 分 名	区 分 名	総 数	第 1 次 産 業				第 2 次 産 業				第3次 産 業
			計	農 業	林 業 狩猟業	漁 業	計	鉱 業	建設業	製造業	
香 川 県	高松市	141,506	18,075	17,034	54	987	38,660	78	10,510	28,072	84,771
	丸亀市	31,696	6,175	5,527	6	642	10,258	289	1,838	8,131	15,263
	坂出市	33,782	6,131	5,529	1	601	12,308	178	2,576	9,554	15,343
	直島町	2,918	259	98		161	1,671	8	319	1,344	988
岡 山 県	倉敷市	190,651	21,351	20,205	26	1,120	100,428	145	17,520	82,763	68,872
	玉野市	38,285	3,484	3,180	12	292	20,325	42	2,518	17,765	14,476
計		438,838	55,475	51,573	99	3,803	183,650	740	35,281	147,629	199,713

資料：国勢調査による。

第8表 市町別製造品出荷額等

市 町 名	区 分	事業所数	従業員数 人	現金給与額 万円	原材料 使用額等 万円	製造品 出荷額等 万円	付加価値額 万円
香 川 県	高松市	2,065	29,279	3,820,886	16,040,733	25,903,778	10,138,484
	丸亀市	430	7,782	1,002,635	5,964,724	8,270,864	2,835,970
	坂出市	409	14,021	2,131,559	20,926,298	31,218,522	11,279,392
	直島町	13	1,062	264,228	7,177,653	8,362,758	1,695,319
岡 山 県	倉敷市	3,759	73,436	11,661,406	154,289,309	198,186,665	32,171,202
	玉野市	371	17,060	2,724,203	17,100,533	24,266,835	8,000,587
計		7,047	142,640	21,604,917	221,499,250	296,209,422	66,120,956

資料：昭和49年工業統計調査による。

Ⅲ 開発の現況と方向

この地域は、瀬戸内海のほぼ中央に位置し、温暖な気候と豊かな自然風土に恵まれており古くから産業と文化が発達してきた。

瀬戸大橋は、本四連絡の鉄道併用橋として今まさに着工を迎えようとしているが、山陽新幹線、中国縦貫自動車道、四国横断自動車道等との連けいによって広域交通体系が整備されるにしたがって、瀬戸内海を中心とする中四国が一体となった広域経済圏が形成されるものと考えられ、この地区は、この広域経済圏の中核的な役割を果たす方向で振興を図る必要がある。

当地域の工業は、水島臨海工業地帯、番の州臨海工業地帯を中核とした基礎資源型工業とその関連産業が中心であるが、今後は自然生活環境保全を基調とした合理的土地利用計画のもとに、都市型工業、知識集約型工業等の一層の集積を図ることとする。

次に、地区内には、鷺羽山、王子ヶ岳、浜川海岸、五色台等の瀬戸内海国立公園特別地域、その他各所に散在する由緒ある文化財や史跡などの豊かな観光資源に恵まれており、最近の観光レクリエーション需要の増大、さらに基幹交通網の整備により、将来、観光客は飛躍的に増大するものと予想される。これらに対処するため東瀬戸内海洋レクリエーション都市建設、広域観光ルートの設定などの施策の推進を図る。

また、港湾については、宇野港が着々整備されつつあるが、瀬戸大橋架橋後の宇野港は四国幹線航路としての機能は低下するとしても、今後は商港として、また瀬戸内海における観光の拠点として振興するよう関連施策の推進を図る必要がある。

各 論

I 地 形 分 類

1. 地 域 概 況

瀬戸内海を中心とする西日本の地形の基礎は東西および南北方向の地波あるいは基盤褶曲であって、本図幅付近は瀬戸内海を曲降させた東西方向の沈降軸と、室戸半島から五色台付近を経て児島半島とその北方へ続く南北方向の隆起軸の交差する地域である。

従って海岸は沈降性の岩石海岸が多いが、沈降量が少ないため山頂部が沈み切れずに海上に残り、備讃瀬戸の多島海を形成し、海底は浅く、瀬戸大橋の架橋候補地として好適の地形を現出している。

讃岐半島とその北方にある島々の山地・丘陵は開析溶岩台地起源であるが、山頂部に平坦面を残す五色台以外は溶岩台地でなく山地・丘陵として区分した。

溶岩は南北方向およびこれに斜交する基盤の割れ目から融出し、集塊岩・凝灰岩類を挟んで花崗岩類の基盤を覆ったが、溶岩は花崗岩類よりも風化侵食に対する抵抗が強く、溶岩に覆われなかった以前の山頂部が削剥されて谷となり、溶岩に厚く覆われていた以前の谷が山頂として残るような地形の逆転もあった。海岸線の出入や島の配列はこのような岩石の硬軟の差や基盤の割れ目や断層などに沿う差別侵食の結果によることが多い。

2 地 形 各 論

(1) 山地・丘陵地

香川県側の山地・丘陵地

山地・丘陵地は5万分の1地形図の各辺を20等分した方眼中の最高点と最低点の比高による起伏量で区分した。起伏量400m以上を大起伏山地、200m以上を中起伏山地、200m未満150m以上を小起伏山地、150m未満100m以上を丘陵地Ⅰ、100m未満の丘陵を丘陵地Ⅱとした。しかし、この地域には大起伏山地はない。

中起伏山地は五色台東部にある勝賀山(364.1m)と串の山(214.7m)の開析溶岩台地起原のピュートと、塩飽諸島の本島南部にある花崗岩の山地(203.9m)以外にはない。

小起伏山地は同島の北東部にある高無防山（199.4 m）から本島中央部にかけたの山地と、開析溶岩台地起源の円錐型ピユートである大槌島（170.8 m）と坂出市林田町の雌山（164.4 m）、紅の峰南方の小山（174.9 m）などがある。

丘陵地Ⅰの大起伏丘陵には直島中央部の地蔵山（123.3 m）・京の山（103 m）・風戸山（118 m）の一帯、葛島北部（104.8 m）、本島の西部、瀬居島（112.3 m）・小槌島（112 m）および串の山北方などに分布し、丘陵地Ⅱの小起伏丘陵は直島周辺部とその周囲にある小島群、塩飽諸島東部の島々、本島西北端と東端、小瀬居島などがこれに属する。

岡山県側の山地・丘陵地

児島半島は丘陵性の山地よりなる。北東部には金甲山 403.4 m が聳えているがそれ以外の山頂で、300 m を越すものは少ない。起伏量 200 以上 400 m 未満の山地を中起伏山地とするが、それに該当するのは、金甲山・常山・鴨ヶ辻山など半島北半部の一部の山地（いずれも「岡山南部」図幅）である。本図幅に含まれる児島半島南半部では、ほとんどの山地は小起伏山地および丘陵地に区分される。最も高い所で、仙随山の 269.9 m にすぎない。本図幅の北西隅に僅かに表現されている中起伏山地は、鴨ヶ辻山の南の山脚部である。

起伏量 150 m 以上 200 m 前後までで、山頂高度 200 m ～ 270 m の山地を小起伏山地とした。これに該当する山地は、龍王山 209.5 m—大山 223.5 m—石鉄山 220.6 m—神山 205 m と南北に連なる山塊（龍王・石鉄山地—以下、括弧内の山地・丘陵地名は記載のため便宜的な呼称である）、仙随山・由加山を中心とする山塊（仙随・由加山地）および新割山 234.4 m を中心とする小山塊（王子ヶ岳山地）の 3 ブロックである。

龍王・石鉄山地は中生代末の噴出と考えられる流紋岩類よりなる山地で、周辺の風化の進んだ花崗岩地域との間に、差別侵蝕による明瞭な地貌の差異が認められる。地質の境界が、ほぼ地形の境界となっている。龍王山の南麓では、明瞭な遷緩点が認められ、山麓の緩斜面は崖錐性堆積物をのせているが、花崗岩を基盤としており、一種の Pediment 地形であろう。

仙随・由加山地は流紋岩類を主とし、一部花崗岩や粘板岩（古生層）より構成される。仙随山付近では、平坦面の名残りと思われる緩斜面がいくらか認められ

る。山地内の河谷は緩勾配で、皿状の谷床をもつが、山地縁辺で遷急点をもち、以下の谷は下刻して急流となる。山地内の浅い谷は、その高度からみて、大起伏丘陵の山頂高度にはほぼ相応するので、大起伏丘陵面形成時の侵蝕基準面に対応する、いわゆる旧輪廻の谷と見なしうる。この山地の南麓、田の口にも、扇状地性ないし崖錐性の堆積物をのせたPediment状の緩斜面がある。

王子ヶ岳山地は粗粒花崗岩よりなる。備讃瀬戸に臨む南側と南西側の斜面は、急勾配で海に落ち込む。露岩が散在し、荒れた地肌をみせるところがあるが、顕著な谷は刻みこまれていない。備讃瀬戸側と児島湾側との分水界は、この部分で著しく南偏し、加茂川の水系がこの山地の北側斜面にまで及んでいる。南北両斜面は非対称的で、北側斜面は比較的傾斜が緩く、谷も深く刻み込まれている。

大起伏丘陵地に該当する主な地域は、仙随・由加山地の東側から宇野一玉一日比の海岸にかけての丘陵地帯（玉野丘陵地）、下津井の北方の丘陵から鷺羽山にかけて（下津井丘陵）、龍王・石鉄山地の西側の丘陵などである。風化の進んだ花崗岩よりなる丘陵地で、地表層は薄く、疎放な植被のところが多い。ところどころ露岩・雨裂・崩土・流土がみられ、はげ山化しているところもある。土砂は谷に流入して砂防堰堤を満たしている。

玉野丘陵地では、金比羅山 161.8 m、瓶割山 156.4 m、石槌山 156.6 m、鴻巣山 170 m、神登山 188.9 m、臥龍山 190.2 m、地藏山 158 mなどと、山頂高度は 150 m~190 mで、山頂はすでに平坦面を失っているが、ある程度の定高性が認められる。小谷が発達して細かく刻みこみ、斜面単位は小さく、細かい山ひだをみせる。この丘陵地帯では、北西~南東方向ないし北北西~南南東方向の谷や、それらと交叉する東西方向の谷が発達し、多くは交通路として利用されている。それらの谷の方向は花崗岩の構造を反映しているとみられる。

小起伏丘陵地は起伏量 100 m 以下のもので、龍王・石鉄山地と仙随・由加山地とに挟まれた、児島・味野の花崗岩よりなる丘陵（児島丘陵地）がこれに当る。浅い谷が入りこんでいるが、起伏量が小さいので、比較的従順な起伏を呈する。まろやかな山頂や尾根には高度数 10 m の定高性が認められる。

児島半島は平坦地に乏しい。狭小な海岸や河谷は市街地や工場で過密状態となり、新たに丘陵地が切崩され、人工造成地がいたるところにつくられつつある。

玉野市玉原の企業団地と住宅団地，倉敷市児島の中山住宅団地，児島柳田町の新児島団地などその例である。それらを人工改変地として図示した。風化花崗岩の丘陵地での土地造成は比較的容易であるが，逆に土砂流などの危険性もあろう。無秩序な造成には警戒すべきであろう。

(2) 溶岩台地

五色台は溶岩台地の模式地であって，広い山頂平坦面を残しているが，地質の弱線帯に沿って分離しかけており，周縁部には侵蝕谷により隔てられた連峰型や孤立丘型の山頂が見られる。この台地の海拔150 m 付近以下は黒雲母安山岩の角礫を含む集塊岩質凝灰岩で，その上に角閃石安山岩や讃岐岩質安山岩の角礫を含む集塊岩があり，これらを貫いて讃岐岩質安山岩の溶岩が水平な構造で発達する。この岩石が造崖層として本台地形成の要因であって，一度この安山岩が削剥されると下位の集塊岩などは急速に削られて山腹に急斜面を造るのである。

北峰付近ではこの岩石の上に純讃岐岩が発達しているが，これは溶岩よりも集塊岩に近い性質を持ち，これを原料とした2～3 万年前の打製石器が，この台地の1 部を覆う火山灰起原の土層中から発見されている。

(3) 山麓地と上位台地

山麓地は山地と傾斜急変線で境され，山麓に展開する開析の進んだ緩斜面で，頂部は平坦だが谷に刻まれた波状または山嘴状の地形である。この地形上に砂礫層が残存している場合が上位台地である。本図幅内の香川県側では山腹の各所に古い河成礫層は認められるが上位台地は確認できない。

山麓地が発達するのは串ノ山周辺，勝賀山から紅の峰南麓にかけての1 帯，王越山の北・西・南の山麓から鎌刃越北方の東分，その北方の西方・西脇，東方の奥条付近の山裾1 帯であって，その上方の山腹に集塊岩がある所では崖錐状堆積物に覆われている。また，本島の北部，櫃石島，瀬居島北部などにも花崗岩山地・丘陵の周辺にこの地形が見られる。

(4) 下位台地と岩石台地

下位台地はいわゆる洪積台地であって，串の山南西の高松市中山町木野戸付近にある。

凝灰角礫岩・流紋岩・花崗岩類などの上に南部では河成円礫，北部では海食礫

を含む砂礫層が南東部に厚く北西部に薄く分布している。

木野戸付近の露出では最大径30cmの亜円礫を含み径10cmくらいの安山岩質の円礫と花崗岩質の円礫が多い河成礫層が厚さ4.5m存在する。南西部の山麓に近い台地面は崖錐堆積物起源の角～亜角礫に覆われている部分も認められる。

また、勝賀山東麓の高松市鬼無町是竹付近や王越山西方の坂出市王越町南条付近にもこのような亜角礫層に覆われた下位台地が分布している。

台地状を成す基盤の各所に礫層遺物を残している地形を岩石台地とした。これは隆起波食台と推定できるが、地域的な地盤運動の差異があるので、上位台地・下位台地のどちらに区分すべきか判定し難い場合が多い。

岩石台地は本島のフクベ鼻・福田南方・泊付近・甲生付近、長島東部、櫃石島・岩黒島・室木島・羽佐島・与島・小与島・牛島・葛島・荒神島・局島などに分布している。

(5) 低地

香川県側の低地

低地には山麓に小河川が形成した小扇状地と河川下流の氾濫原や三角州、海岸に波が打ち上げた浜堤や海中に堆積した砂が海面上に現われた砂州、旧塩田を含む人工の埋立地などがある。

小扇状地は青峰東北麓、法印谷北方、鎌刃越北方、青海川上流沿岸などにあり土石流地形は勝賀山東北麓、亀水湾頭の弓弦羽付近、本島の泊・小坂・生の浜・尻浜・大浦などに認められる。

三角州は青海川下流の坂出市高屋町付近、雌山周辺などにあり、浜堤・砂州は高松市香西北町平賀下、同市神在川窪町の神在・中磯、坂出市大屋富町の須賀北・川端付近、その他各地の湾頭にあり、その内側の後背湿地は河川の氾濫原になっていることが多い。

人工埋立地としては各湾頭に造られた旧塩田と新しい番の州埋立地がある。番の州埋立地は昭和39年（1964）から45年にかけて、坂出沖の沙弥島と瀬居島を結び、備讃瀬戸航路の浚渫土砂で6,117,000m³を埋立てたもので、土砂が旧河川堆積物の砂礫であるため地耐力が強い。

旧塩田の造成状態をみると、高松市では寛政2（1790）年に生島浜（約30.7ha）、

明治24（1891）年に亀水浜（2.1ha），坂出市では寛永17（1640）年（7.5ha）と享保13（1728）年（10.8ha）に高屋浜，昭和1（1764）年に木沢浜（1987ha），明治6（1873）年に沙弥浜（6ha），明治23年に高屋の中榎浜（1.2ha），同29年に青海川河口西側に15haと同36年に同地東側に15.6haの松浦塩田，同34年には金山浜（14.25ha），同36年には総社浜（29.7ha）と大番浜（5.75ha），同40年には乃生塩田（15.5ha），昭和2（1927）年には金山新塩田（26.3ha），丸亀市本島では文政13（1830）年から天保9（1838）年にかけて泊の宮の浜（9.8ha），香川郡直島では天保年間に御恵浜（14ha），明治初年に家島塩田（6ha）などが造られた。

これらの塩田は塩業革命ですべて廃止され，エビ養殖場（宮の浜）・畑地（坂出市大屋富町）や工業用地・宅地などに利用されている。

岡山県側の低地

児島半島では，山地・丘陵地がただちに海に追り，低地に乏しい。かつては狭い河谷底と，溺れ谷の湾口を砂州・砂嘴がふさぎ，その背後の潟湖が埋立てられてできた小さな低地とがあるにすぎなかった。江戸中期以降，塩田の発達にともなって，遠浅の海岸では海岸線が人為的に前進した。明治30年の2万分の1地形図から判読される塩田およびそれ以後陸化した部分を，平潟・埋立地のなかを含めて表現した。

宇野港から日比にかけての海岸は，明治以降，日比精練所（1893）を契機とし宇野港の建設（1909），三井造船所の創設（1917）などによって臨海工業都市として発展した。それにもなって，塩田は姿を消し，海はさらに埋立てられて，工場用地や市街地が広がった。

赤崎・味野から田の口にかけての地先の干潟には，化政期（19世紀初）以後，塩田が開かれた。これらの塩田は，塩業革命によってすべて廃止となり，現在その姿を急変しつつある。

水島灘に面する低地は，溺れ谷を埋積したわずかの低地を除いて，工業開発に伴う埋立地である。埋立は宮の鼻にまで及び，塩生のかつての浜堤は内陸に閉じこめられ，高島は地続きとなった。

仙随・由加山地に源をもち，児島湾に流れ込む加茂川（鴨川）に沿う河谷低地

は、三堀付近から幅を増す。これに合する溪流は谷底平野に小扇状地を重ねる。小扇状地の表現については、扇状地としたものと、谷底平野に含めたものがある。加茂川は、堤防にはさまれて、川底が次第に高くなり、樋ヶ原付近（岡山南部図幅）では天井川を呈するところがある。

香川大学教育学部 高 桑 糺

岡山大学教育学部 高 橋 達 郎

Ⅱ 表 層 地 質

1 表層地質概説

本図幅地域は瀬戸内海をはさんで、岡山県と香川県にまたがり、大部分は花崗岩類および各種溶岩類などの火成岩類からなっている。

岡山県側では、上部古生界の泥質岩（ホルンフェルス化）が児島由加および白尾付近に分布しており、これを不整合におおって、白亜紀の流紋岩質溶岩および全質火砕岩類が、仙随山、石鉄山、竜王山付近に分布している。またこれら諸岩類に対してルーフペンダントの関係で花崗岩類が広く分布しており、上記諸岩類に接触変成作用を及ぼしている。この花崗岩類は児島半島南部や岩黒島付近においては閃緑岩ないし斑れい岩を捕獲している。

香川県側では、基盤の花崗岩は、いわゆる新期の領家花崗岩であって、これをおおって、古銅輝石安山岩溶岩が広く分布し、五色台として、溶岩台地状の地形を呈している。洪積層は極めて少く、僅かに香川県の五色台の山麓に分布するのみである。

沖積層は小渓流沿いのはんらん堆積物（砂礫質）と海浜堆積物（礫質、ないし砂礫質）とからなっている。

2 地層地質各論

(1) 未固結堆積物（沖積世）

ア 泥がち堆積物（m）

泥がち堆積物は、浜堤の後背湿地部や昔の湾入部の湾中部に相当する部分に発達している。

イ 砂がち堆積物（S）

砂がち堆積物は、その分布が極めてせまいが、臨海部に発達し砂浜を形成しているものである。とくに高松市神在付近で砂丘を形成している。

ウ 砂礫がち堆積物（gs）

小河川の扇状地性堆積物および各小支流における土石流堆積物とである。更に海岸沿いの低地および島嶼部の海浜にみられる。

エ 礫がち堆積物 (g)

前記砂礫がち堆積物の周辺地域に分布している。

オ 碎屑物 (崖錐) (CI)

山地および丘陵地の緩斜面には、ホルンフェルス化泥岩、火山性岩石および花崗岩の角礫よりなる崖錐が分布している。厚さは数m位で、厚い所で10m前後である。花崗岩丘陵地の周辺の崖錐は粗砂質で、風化帯部と区別しにくい場合が多い。

(2) 半固結堆積物 (洪積世)

本地域には、洪積層の発達が悪く点在しているにすぎない。2段識別し得る。

ア 砂礫および粘土 (低位堆積物 t_2)

香川県の五色台周辺山麓に僅かに分布し、砂礫質で、時に粘土をまじえる。

イ 礫および粘土 (高位堆積物 t_1)

本地区でただ1ヶ所分布しているにすぎない。坂田市高屋町から五色台に通ずる道路沿いで、高さ100m前後にみられるもので、凝灰岩を不整合におおって分布している。主としてPebbleないしはCobbleサイズの礫よりなり、マトリックスは砂質粘土である。

(3) 火山性岩石 (新第3紀～白亜紀)

ア 古銅輝石安山岩 (讃岐岩) (Ab_2)

イ 古銅輝石安山岩 (讃岐岩質安山岩) (Ab_1)

両岩石は同種のものであるので、一括して説明する。この岩石は、黒色ないしは暗灰色を呈し、緻密質で斑晶に乏しく、きわめて堅硬であるが、風化すると、淡赤紫色ないしは赤褐色となる。

斑晶は古銅輝石および斜長石を主とし、石基は、微細な斜長石、斜方輝石、単斜輝石および磁鉄鉱からなる。この岩類の中で、前者のものはとくに讃岐岩とよばれ、金属音を発するもので、別名“かんかん石”といわれている。この正規の讃岐岩は一般に斜長石に乏しく、古銅輝石の小針状斑晶にとみ、やや光沢をもった黒色を呈し堅硬であるが裂開性にとむ。極度に風化すると灰白色を呈する。

噴出時期は共に新第3紀 (Tn) に属する。きわめて堅硬で骨材としての利

用度が高い。

ウ 凝灰岩および凝灰角礫岩 (Tb)

香川県の五色台に分布し、古銅輝石安山岩溶岩の下位に分布し、基盤の花崗岩上に直接不整合に座している。主として白色の酸性凝灰岩ないしは凝灰角礫岩で、流紋岩および黒雲母安山岩礫を含み、ところにより古銅輝石安山岩礫を含む場合もある。一部層理を示すが、塊状の場合もある。新第3紀(Tn)に属する。

エ 安山岩質岩 (An)

本岩は主として岡山県側に分布し、花崗岩を貫いて岩脈状に発達するものである。岩脈の幅は10~15m前後のものが多い。古第3紀(TP)に属する。

オ 流紋岩質岩 (L)

岡山県側に分布するもので、本岩は花崗岩類をおおってルーフ状に分布するものと、花崗岩を貫き岩脈状を呈するものとある。前者は周辺の花崗岩より古く、中生代(M)白亜紀に属し、流紋岩質角礫凝灰岩、溶結凝灰岩および溶岩よりなり、花崗岩による接触変成作用を受けて、一部ホルンフェルス化している。後者の岩脈状のものは、花崗岩より新しく古第3紀(TP)に属するものと思われる。

(4) 深成岩(中生代)

ア 閃緑岩質岩 (Dr)

図幅中では、一応閃緑岩としてあるが、この中には斑れい岩質のものも含まれる。

この岩石は倉敷市大島付近と、香川県岩黒島および高松市神在鼻付近に小岩体として分布する。大島付近のものは、細粒、緻密な石英、黒雲母、角閃石、斜長石岩であり、岩黒島および神在鼻付近のものは、花崗岩化作用をほとんど受けていないが、単斜輝石、褐色角閃石を残斑晶として、やや淡色な普通角閃石、カミングトン角閃石などが新に生じ、斜長石の再結晶も充分行なわれており、このタイプのものは領家花崗岩中にしばしば伴われている。

イ 花崗岩類 (G)

花崗岩類は調査地域に広く分布するが、地質学的にみて、田の口、児島由加

を結ぶ線以東のもの（タイプⅠ）、田の口、児島由加を結ぶ線以西と、長島、歩渡を東西に走る線の北（タイプⅡ）と南香川県地域にかけての（タイプⅢ）に分けられる。

タイプⅠは極粗粒の黒雲母花崗岩で、粒径1～3cmに達するものが多い。水平ないし低角度の節理面と、南北系及び東西系の節理面の組合せによる特異な侵食地形を呈している。タイプⅡは中粒～粗粒の黒雲母花崗岩で、古生層、流紋岩類などのルーフ状岩体に対して接触変成作用を及ぼしている。この岩体は下津井、鷺羽山付近から六口島、櫃石島、釜島などでは、塩基性捕獲岩（輝緑岩起源）を多く含んでいる。タイプⅢは新期領家花崗岩類として従来あつかわれてきたもので、岩黒島以南の島嶼部から香川県下に広く分布する。粗粒、淡紅色の閃雲花崗岩および花崗閃緑岩であり、カリ長石の斑状結晶の存在が特徴で、部分的に微弱な片状構造が発達する。いずれのタイプの花崗岩も風化が著しく、マサの厚さは10数mに及んでいる。

(5) 変成岩（古生代）

ア ホルンフェルス（McI）

上部古生代の泥質岩（チャートの薄層を挟在）が白亜紀花崗岩による接触変成作用を受けて、ホルンフェルス化したものであり、玉野、倉敷両市の境界付近の児島由加から玉野市広岡にかけて分布する。細粒、緻密の堅い岩石で、風化作用による影響は進んでいない。

イ 雲母片岩および片磨岩（Ms）

この岩類は前者のホルンフェルスよりは、高変成のもので、片状構造著しく、雲母類にとんだ黒色部と石英および長石にとんだ白色部とが互に密に互層している。一部では縞状片麻岩と称した方がよいものもある。

香川大学農学部 齊 藤 実
岡山大学理学部 光 野 千 春

Ⅲ 土 壤

1 山地・丘陵地地域

(1) 概 説

(香川県側)

讃岐半島北部地域の五色台およびその周辺の小山塊群には、上部に讃岐岩質安山岩が広く分布し、その下部は凝灰岩および凝灰角礫岩をはさんで山麓部に花崗岩類が分布している。また内海島しょ群は、ほとんどが花崗岩類で占められているが、半島など一部に領家変成岩類の分布がみられる。

この地域の植生は、アカマツ、クロマツを上木とし、ネズミサシおよび陽性の広葉樹をまじえた植生で、きわめて乾性を帯びた植生が分布している。これらの植生分布は、過去における植生の人為的な破壊の後に構成された2次植生であるとみられ、海岸近くの低山地や島しょ部では林床植生の発達のきわめて貧弱なものも見受けられる。

この地域の土壌は、その大部分が褐色森林土であるが、内海島しょ群および讃岐半島の一部には弱度の侵食をうけた未熟土（受食土）の分布がみられ、また五色台では、安山岩類の熱風化物に由来する赤色土（暗赤色土壌）が出現する。

これらの土壌は、母材、断面形態、堆積様式の相違によって、下記のように3土壌群、6土壌統に区分した。

土 壤 群	土 壤 統 群	土 壤 統
未 熟 土	残積性未熟土壌	1 統
褐 色 森 林 土	乾性褐色森林土壌	1 "
	乾性褐色森林土壌（黄褐色系）	1 "
	褐色森林土壌	1 "
	褐色森林土壌（黄褐色系）	1 "
赤 黄 色 土	暗褐色土壌	1 "

(2) 各 論

ア 残積性未熟土壌

(ア) 丸山統 (Mar)

強度の侵食を受けて、A層はもちろんB層の一部まで欠除した受食土壌である。海岸近くの低山地および内海の島嶼部に出現する花崗岩類を母材とするものは、いわゆるマサ土様のB層または深層風化を受けた脆弱な花崗岩体が露出している。また五色台山塊上部には、安山岩類を母材とするものが出現する。一般にマツの疎林で、生育は劣悪で林床植生もきわめて貧弱である。

イ 乾性褐色森林土壌

(ア) 白峰山1統 (Sha 1)

五色台およびその周縁の丘陵性山地の上部に分布する。安山岩類および凝灰岩類を母材とし、山頂部ならびに山腹斜面に分布する乾性土壌である。A層の形成は薄く暗色を呈する。B層は腐植含量は少ないが、彩度が低く明度の高い灰褐色の土色を呈している。堆積はきわめて堅密で、堅果状構造が発達する。土層は一般に浅く、主としてアカマツ、クロマツの散在する広葉樹の天然林となっているが、マツの生育は一般に不良である。

ウ 褐色森林土壌

(ア) 白峰山2統 (Sha 2)

白峰山1統と同じ地域に分布するが、主として谷底斜面に狭小な範囲に帯状に出現する。腐植の土層への侵入は白峰山1統にくらべてやや良好で、暗色のA層が形成され、粗粒状または堅果状構造が発達する。B層は灰黄褐色を呈するものが多く、堆積は堅密でカベ状である。アカマツ、広葉樹の天然林であるが、生育は中ようである。

エ 乾性褐色森林土壌 (黄褐系)

(ア) 国分寺1統 (Kob 1)

花崗岩地帯に広く分布し、尾根筋および山腹斜面の大部分を占める乾性土壌である。A層の形成はきわめて薄いかあるいは不明りょうなものも多く、土壌構造の発達も貧弱である。B層はカベ状を呈し、全土層は浅く、深層風化を受けた花崗岩のC層に漸接する。土壌は全般に母材の性質を反映して細礫に富み、土性は砂質である。この土壌は本調査では一応褐色森林土として

取り扱ったが、層位の分化、断面形態などからみて上記の未熟土（丸山統）ほどではないが、概して未熟土の要素が強い。この土壤はアカマツ、クロマツと広葉樹の天然林となっているが、マツの生育は不良である。

オ 褐色森林土壤（黄褐色系）

(ア) 国分寺 2 統（Kob 2）

国分寺 1 統と同じ地域に分布するが、谷底斜面の比較的狭小な斜面に出現する弱乾性～適潤性土壤である。国分寺 1 統よりは湿った環境にあるため有機物の分解はやや良好で、腐植含量はとくに多くはないが、腐植に汚染された暗色の A 層もしくは A～B 層が 20～30 cm ぐらい形成される。土壤構造はとくに特徴的なものはなく、一般的にカベ状を呈するものが多い。アカマツ、広葉樹の天然林となっているが、その生育は良好とはいえない。

カ 暗赤色土壤

(ア) 城山統（Ki y）

この土壤は安山岩類の熱風化物に由来するものと考えられる土壤で、五色台に出現する。暗色の A 層が薄く形成されるが、B 層は赤褐色～チョコレート色を呈し、全土層が埴質でち密である。この土壤では、アカマツ、広葉樹の天然林となっているが、その生育は悪い。

農林省林業試験場四国支場 井上輝一郎

(1) 概 説

（岡山県側）

瀬戸内海に点在する島嶼とその沿岸地域の年平均気温は 15°C 前後で比較的温暖であるが、年降水量は 1,000～1,100 mm 程度の寡雨地帯であり、かつ臨海地域のため海風の影響を受け、かなり乾燥しやすい環境下にある。

本図幅の児島半島は、北部および中部に小面積ながら非変成古生層の粘板岩が見られるほか、未熟土と関係の深い深層風化の花崗岩が広く分布し、また西部地域に流紋岩が 2ヶ所見られ、丘陵性山地を形成している。

この地域は古くより製塩が盛んで、燃料として林地は乱伐が繰り返され、さらに頻発する山火事のため、植生は極度に悪化し、受蝕土が広く分布し、全国有数ののはげ山地帯として知られている。

特にこの地域には、はげ山復旧、特殊林地改良事業が広い面積にわたり施行され、各種の肥料木が導入されている。

この地域の植生は、臨海部にクロマツ、ウバメガシがかなり見られるが、一般にはアカマツを上木とし、下層にはネズミサシ、ネジキ、ヒサカキ、コバノミツバツツジ、コシダなどの乾性の植生が、花崗岩、流紋岩地帯に発達している。なお、古生層の分布している北部地域には、アカマツのほかに、リョウブ、アベマキ、コナラ、カクレミノ、ヤマツツジ、カナメモチ、ネズミモチなどの植生が見られる。

本地域の山地、丘陵地の土壌は、母材、堆積様式、断面形態などより、3土壌群、6土壌統群に大別され、さらに13土壌統に細分した。

土壌群	土 壌 統 群	土 壌 統
未 熟 土	粗粒残積性未熟土壌	2 統
	残積性未熟土壌	2 "
褐色森林土	乾性褐色森林土壌（黄褐色系）	3 "
	乾性褐色森林土壌（赤褐色系）	2 "
	褐色森林土壌（黄褐色系）	3 "
赤黄色土	赤色土壌	1 "

(2) 各 論

ア 粗粒残積性未熟土壌

花崗岩を母材とする臨海部の丘陵性山地に広く分布している。

(ア) 丸山1統 (Mar 1)

強度の表面侵蝕を受けている尾根筋や凸型斜面に広く分布し、A層またはB層の一部を欠ぐ砂質の受蝕土壌で、治山あるいは瘠悪林地改良事業が広く施行され、階段工等の山腹工事と共に各種の肥料木その他アカマツ、クロマツ、アベマキなどが導入されているが、一般に肥料ぎれの現象が見られる。また劣悪なアカマツ天然林が多く、地表植生も極めて貧弱である。

(イ) 丸山2統 (Mar 2)

丸山1統と同じ地域の山腹下部の凹型斜面に出現し、土層が深く、水分環境に若干恵まれた未熟土壌でアカマツの生育も比較的良い。

イ 残積性未熟土壌

流紋岩を母材とする西部の丘陵性山地にかなり広く分布している。

(ア) 三石1統 (Mit 1)

丸山1統と同じく尾根筋や山腹上部の比較的傾斜の急な凸型斜面に出現し、強度の侵蝕を受け、A層もしくはB層の一部を欠ぐ植土～微砂質の受蝕土壌で、散生しているアカマツ天然林の生育は極めて悪い。

(イ) 三石2統 (Mit 2)

三石1統と同じ地域の山腹下部に分布し、土層が一般に深く、水分環境に比較的恵まれた植土～微砂質の受蝕土壌である。この土壌にはアカマツの天然林が多く、生育は比較的良い。

ウ 乾性褐色森林土壌 (黄褐系)

10 Y R系を基調とする土色で特徴づけられた乾性土壌で、母材、土性、断面形態の相違により、これらを考慮して次の3統に区分した。

(ア) 国分寺1統 (Kob 1)

花崗岩を母材とする砂質の乾性土壌で尾根筋および山腹斜面に出現する。A₀層は堆積するが、A層の形成はきわめて薄く、B層は一般に堅密で、深層風化を受けたC層に漸変する。島嶼部はクロマツ、内陸部はアカマツの天然林が多く、生育は良くないが肥料木の導入あるいは林地肥培等により生産力を高めることができる。

(イ) 和気1統 (WaK 1)

流紋岩を母材とする微砂質～埴質の乾性土壌で西部の丘陵性山地の尾根筋および山腹斜面にかなり広く分布し、A₀層は堆積するがA層の形成は極めて薄く、細粒状構造が見られ、B層は弱度の粒状～堅果状構造が認められる。土層は一般に薄い。この土壌はアカマツ天然林が多く、生育はあまり良くないが、肥料木等の導入により、土壌改良をはかり生産力を高めることが望ましい。

(ウ) 常山1統 (Tny 1)

北部の古生層地帯における山腹上部に広く分布する乾性土壌で、小角礫を含み比較的孔隙に富む。土性は壤土で林床植生のコシダの丈は比較的長く、乾燥したA₀層は厚く堆積するが、A層の形成は薄く、細粒状構造が見られ、B層は弱度の粒状～塊状構造が認められる。この土壌には、アカマツその他コナラ、アベマキ等の天然林が見られ、国分寺1統および和気1統より一般に生産

力は高い。

ウ 乾性褐色森林土壌（赤褐色系）

低山、丘陵地の安定した広尾根またはその周辺の緩斜面に点在的に分布している。

(ア) 仙随統（Sez）

中部の花崗岩を母材とする丘陵地に分布し、土壌は5 Y Rの比較的明るい色相を呈し、A₀層は堆積するもA層は薄く、灰褐色、B層はにぶい赤褐色を呈し、一般に埴質で通気性に乏しい。この土壌はアカマツ天然林が多く、生産力は低い。

(イ) 八塔寺山統（Hat）

中部の流紋岩を母材とする丘陵地に分布し土性は微砂質でB層以下は一般にMassiveで堅密な場合が多く、林木の生育にはあまり適さない。

エ 褐色森林土壌（黄褐色系）

内陸部における丘陵性山地の谷底斜面に出現し、その占有面積は僅かである。

(ア) 国分寺2統（Kob 2）

国分寺1統と同じ地域に分布し、谷底斜面の狭少な範囲に出現する。国分寺1統よりも少し湿った水分環境にあるため、有機物の分解はやや良好で、にぶい黄褐～暗褐色を呈するA層は10cm程度に達し、団粒状構造が一部に見られる。B層はカベ状～弱度の塊状構造が見られ、土壌は砂質である。この土壌は比較的生育の良いアカマツまたは広葉樹の天然林が見られ、林地肥培等により優良な外国マツとヒノキの長伐期の二段林が期待できる。

(イ) 和気2統（WaK 2）

和気1統と同じ地域に分布し、谷底斜面の崩積土に局部的に出現し、和気1統より水分環境に恵まれ、アカマツの生育も比較的良い。

(ウ) 常山2統（Tny 2）

常山1統と同じ地域に分布し、谷底斜面に細長く出現する。水湿状態はやや潤で角礫を含み、孔隙に富む。A層は10～15cmに達し弱度の団粒構造が見られ、有機物の分解はやや良好でB層の下部までにはぶい黄褐色を呈している。この土壌は国分寺2統、和気2統より若干生産力は高く、スギの造林地も一部に見られるが、マツとヒノキの長伐期の二段林が望ましい。

オ 赤色土壌

花崗岩およびこれに隣接する流紋岩地帯の低山、丘陵地の安定した広尾根またはその周辺の緩斜面に分布している。

(ア) 種松山統 (Tan)

粘質な土壤でA層は薄い。B層は一般にMassiveで堅く、林木の生育には適しないが、人為的な施肥耕耘を加えて、畑地、樹園地として収益性の高い作物の栽培が望ましい。

岡山県林業試験場 木本 弘一郎

2 台地低地の土壤

(1) 概 説

本地域の土壤はその断面形態、母材、堆積様式により、つぎの4土壤群、7土壤群に大別され、さらに15土壤統に細分された。

土壤群	土壤統群	土壤統
赤黄色土	黄色土壤	3 統
褐色低地土	褐色低地土壤	2 "
灰色低地土	細粒灰色低地土壤	2 "
	灰色低地土壤	2 "
	粗粒灰色低地土壤	3 "
グライ土	細粒グライ土壤	1 "
	グライ土壤	1 "
	粗粒グライ土壤	1 "

(2) 各 論

ア 黄色土壤

この土壤は主として山麓傾斜面から下位台地に分布し、多くは腐植含量が低く暗色を呈しない。A層下に5YRより黄色の土層をもつ花崗岩、石英斑岩、古生層等を母材とする崩積～残積性の土壤である。主に果樹園または普通畑として利用されているが、生産性は中位～低位である。

本土壤統群はつぎの3土壤統に細分される。

(ア) 香南統

これは残積性の粘質な土壤で、倉敷市児島白尾および宇野津、丸亀市の本島東部と牛島町に分布し、果樹園または普通畑として利用されている。

(イ) 讃岐統

これは花崗岩および讃岐層群を母材とする壤質～砂質の土壤で、礫を含む～含む所が多い。岡山県では地区全体に点在し普通畑として利用されているが、香川県では本図幅内の東部および坂出市の瀬居町、与島、櫃石島、丸亀市本島の南東部に分布し、果樹園または普通畑として利用されている。

(ウ) 青ノ山統

これは山腹ないし山麓傾斜面に分布する礫質の土壤である。主として讃岐岩類(Sanu Kites)を母材とし、全層が角礫質で、極めて浅い位置から角礫層となる未熟な土壤である。坂出市の大屋富町、青海町、王越町に多く分布し、主にミカン園として利用されている。

イ 褐色低地土壤

この土壤は沖積低地に分布し、断面の主要土層が黄褐色を呈する壤質土壤である。水田または畑として利用されており、生産性は中位である。本土壌統群は地目、斑紋、結核等により2土壤統に細分される。

(ア) 芝統

花崗岩を母材とする水積性の壤質～砂質の土壤で、礫を含むところが多い。倉敷市児島塩生、通生、下津井等に分布し、畑地として利用されている。

(イ) 三川内統

これは花崗岩を母材とする水積性の壤質土壤で、下層土に斑紋、結核をもち礫を含むところが多い。水田として利用されている。

ウ 細粒灰色低地土壤

この土壤は主として沖積低地に分布し、断面の全層または主要土層が灰色～灰褐色を呈する粘質～強粘質な土壤である。水田として利用されており、生産性は中位～高位である。

本土壌群はつぎの2土壤統に細分される。

(ア) 鴨島統

これは断面の主要土層が灰色を呈し、マンガン結核をもたない粘質土壤で

ある。倉敷市児島由加，宇野津等に分布する。

(イ) 宝田統

これは断面の主要土層が灰色を呈し，マンガン結核をもつ粘質土壤である。
玉野市長尾等に分布する。

エ 灰色低地土壤

この土壤は断面のほぼ全層が灰色～灰褐色を呈する壤質土壤である。主として沖積低地に分布し，水田として利用されている。生産性は中位である。

本土壤統群はつぎの2土壤統に細分される。

(ア) 加茂統

これは断面の主要土層が灰色を呈し，マンガン結核をもたない壤質土壤である。本図幅内では岡山県の地域全般に広く分布するが，主に倉敷市児島柳田，柳田，味野，菰池，白尾等に分布する。

(イ) 清武統

これは断面の主要土層が灰色を呈し，マンガン結核をもつ壤質土壤である。坂出市王越町，高松市の中山町，神在川窪町，香西北町および玉野市長尾等に分布がみられる。

オ 粗粒灰色低地土壤

この土壤は断面の全層または主要土層が灰色～灰褐色を呈し，下層土の土性が砂質であるか，または60cm以内より砂礫層，礫層等が出現する土壤である。主として沖積低地に分布が多く，水田として利用されている。透水性が過良であり，鉄，マンガン，珪酸，塩基が下層に溶脱されており，老朽化した土壤が多い。生産性は中位～低位である。

本土壤統群はつぎの3土壤統に細分される。

(ア) 豊中統

これは断面の主要土層が灰色を呈し，下層が砂質の土壤である。玉野市長尾，倉敷市児島上之町，赤崎，下津井等に広く分布する。

(イ) 追子野木統

これは断面の主要土層が灰色を呈し，30～60cm以内から礫層，砂礫層が出現する壤質～砂質土壤である。玉野市滝，倉敷市唐琴，田の口に分布する。

(ウ) 国領統

これは断面の主要土層が灰色を呈し、30cm以内から礫層、砂礫層が出現するきわめて有効土層の浅い土壤である。玉野市永井および坂出市青海町に分布する。

カ 細粒グライ土壤

これは80cm以内に青灰色のグライ層をもつ粘質～強粘質土壤である。沖積低地に分布し、水田として利用されているが、生産性は低い。

本土壤統群に属する土壤統はつぎの1統のみである。

(ア) 三隅下統

これは下層に青灰色のグライ層をもつ粘質土壤で、地下水位が高く、斑紋結核構造を有する土壤である。玉野市長尾にわずかに分布する。

キ グライ土壤

この土壤は少なくとも表面から80cm以内にグライ層をもつ壤質土壤である。沖積低地に分布し、水田として利用されているが、生産性は低い。

本土壤統群に属する土壤統はつぎの1統のみである。

(ア) 新山統

これは作土直下が灰色土層であるが、30～50cm以内よりグライ土壤が出現する土壤である。高松市亀水町に分布する。

ク 粗粒グライ土壤

この土壤は下層土の土性が砂質であるか、または60cm以内より砂礫層が出現するグライ土壤である。沖積低地に分布し、水田として利用されているが、生産性は低い。

本土壤統群に属する土壤統はつぎの1統のみである。

(ア) 八幡統

これは下層に青灰色のグライ層をもつ砂質土壤で、地下水位が高く、斑紋を有する土壤である。倉敷市の児島下之町、唐琴、坂出市の林田町、大屋富町、高屋町および香川県直島町に分布する。

香川県農業試験場 大熊正寛

岡山県農業試験場 平岡正夫

Ⅳ 傾 斜 区 分

(香川県側)

傾斜区分は地表の傾斜が 40° 以上、 30° 以上 40° 未満、 20° 以上 30° 未満、 15° 以上 20° 未満、 8° 以上 15° 未満、 3° 以上 8° 未満、 3° 未満の7段階に分級し、これを等高線の間隔による定規を使って区分した。

40° 以上の急傾斜地は、五色台山地の山頂に近い造崖層直下の山腹に広く分布し、乃生岬（玉野凶幅の及生岬は誤り）の北端と西部の斜面、大崎鼻北端部、紅の峰鼻付近と紅の峰の山頂平坦面周辺、神在鼻付近、王越山山頂部などのほか、大植島・小植島や直島群島北部の小さい島々、塩飽諸島の牛島・与島・岩黒島・諸木島・向島・長島などの岩石海岸の海崖の部分などに発達する。

30° 以上 40° 未満の地域は五色台山地の中腹に広い分布があり、雌山の大部分、大植島・小植島、直島の中部と北部の山地、荒神島の西南部と東北端、葛島北部、京の上島・局島の中腹、瀬居島山頂部、本島の山地の大部分などにも分布地が広がっている。

20° 以上 30° 未満の地域は山地の中腹以下に分布することが多い。五色台山地では東山付近、根香寺付近、王越山周辺、赤鼻付近、亀水川兩岸の山麓、串の山東南麓、勝賀山周辺など、直島の京の山から地藏山に掛けてと鷲の松から風戸山付近、荒神島東南部、瀬居島の山麓、与島・小島の山地の大部分、櫃石島西部、長島・向島の大部分、本島の山麓部の各所などに見られる。

15° 以上 20° 未満の地域は五色台山地の山麓や山頂平坦面の1部、各島の山麓の1部などに散在する。五色台山地では青峰山頂付近、勝賀山・串の山の山麓、北峰東方やタンベ池西南方、鎌刃越北方山麓、王越山西南山麓など、直島では地藏山東麓や宮の浦付近の山麓など、局島山頂部、杵島・屏風島・喜兵衛島の山地の大部分、櫃石島東北部、本島の高無防山南麓・大浦の谷の山麓部などにある。

8° 以上 15° 未満の地域も五色台山地の山頂平坦面の1部や各山地の山麓に分布地があり、山頂部では乃生岬南方・タンベ池西方・阿弥陀越付近・青峰付近・紅の峰西方など、山麓部では勝賀山周縁、乃生岬東方の西脇から南条・東分・奥条を経て東山に至る山麓部、直島の京の山北麓、本島の大浦や高無防山南麓などにある。

3°以上8°未満の地域は山頂平坦面や台地、島の低地などにあり、タンベ池・北峰・五色台スカイライン北部・紅の峰山頂などの付近、串の山・勝賀山周辺の台地、青海川上流沿岸、直島や瀬居島・与島・櫃石島・本島などで集落が立地する湾頭の低地などに分布する。

3°未満の平坦地は亀水川・青海川などの沖積地や雌山周辺の低地、番の州埋立地、坂出市林田町・王越町、高松市亀水町・生島町、直島町本村付近、与島中央部などにある旧塩田その他の人工地、生島町木野戸付近の下位台地面などに分布しているのである。

香川大学教育学部 高 桑 紘

(岡山県側)

傾斜区分図は計測方法によって著しい差を生じるので、この部分の計測方法のあらましを記しておく。作業基図として2.5万分の1の地形図を用い、50mごとの等高線の間隔を、傾斜尺度定規で計測し7段階に区分した。等高線間隔が著しく広い場合や、50mごとの等高線の間で明瞭な傾斜変換が認められる場合などは、10mごと、20mごとの等高線間隔について傾斜尺度を用いて区分した。計測に際しては尾根と谷とに挟まれた一まとまりの斜面を単位とするよう留意したが、細かい山ひだのところでは小さな斜面は無視せざるをえなかった。崖として表現されているものは、40°以上の階級に含めた。こうして得られた2.5万分の1傾斜区分図を、5万分の1図に編集した。(以下の山地・丘陵地名はI地形分類の項による。)

児島半島南半部で最も急な傾斜地は、備讃瀬戸に面する王子ヶ岳山地の南斜面である。30°以上40°未満のものが多く、一部に40°以上の急傾斜地も認められる。急斜面は植被に乏しく、露岩がみられる。それに対して北側斜面は主として20°以上30°未満であり、尾根付近では15°以上20°未満の斜面となるところがある。

玉野丘陵地では、20°以上30°未満の斜面が主体となる。下刻が進んだ河谷の側壁斜面では30°以上40°未満のところがある。

仙随・由加山地では、山腹は主として20°以上30°未満の斜面よりなるが、田の口を臨む南斜面では、30°以上40°未満の急斜面、一部には40°以上の階級のものも含まれる。一方山頂近くは15°以上20°未満と比較的緩く、浅い旧輪廻の谷では、8°以上15°未満の斜面となる。

児島丘陵地は、8°以上15°未満、15°以上20°未満の斜面よりなる。谷に面する斜面で

は 20° 以上 30° 未満のものが認められるが、斜面が短いので、5万分の1傾斜区分図では表現されないことが多い。

龍王・石鉄山地では、龍王山および大山―石鉄山の西側中腹の一部に 30° 以上 40° 未満の急斜地が認められる。山腹は全般的には 20° 以上 30° 未満の斜面が多いが、大山から石鉄山の尾根付近では 15° 以上 20° 未満と緩くなる。龍王山は標高100m以上は 30° 以上の急斜面で聳え立っているが、以下は明瞭な傾斜変換点をもって、 15° 以上 20° 未満、50m以下では 8° 以上 15° 未満と緩くなる。

下津井丘陵地では、海や河谷に面した部分で 30° 以上の急斜面を見ることがあるが、一般には 20° 以上 30° 未満の斜面が多い。

六口島は 20° 以上 30° 未満の斜面が多いが 30° 以上の急斜面もところどころにみられる。

岡山大学教育学部 高 橋 達 郎

V 水系・谷密度

(香川県側)

本図幅内の香川県側において、おもな水系を説明する。

五色台東部では青峰と勝賀山の間にある谷から住吉川が流れ出し、勝賀山北斜面の谷からの支流、山荒川を合せて高松市神在川窪町付近の低地に氾濫原を形成し、瀬戸内海へ放流している。また、青峰西方の谷から亀水川が紅の峰西麓に河谷平野をつくり亀水湾に流入する。

五色台西部の坂出市側では、阿弥陀越北方の法印谷から木沢川が王越町木沢付近に扇状地性の氾濫原を展開して木沢湾にはいる。大屋富町では鎌刃越南方の谷から大屋富川が流れ出し青海川の河口に近い所で分流して、1部はこの川へ合流、1部は北流して新地西方の港に河口を持っている。青海川は阿弥陀越南方の谷を大平山から白峰付近の北流する支流を合せて、東山北麓に河谷平野をつくり、雌山北麓で明神川と神谷川を合流する。

島部では川らしい川はなく名称がある小流では本島の小坂川・大浦川あるいは直島の広木川などに過ぎない。

谷密度は水系図に5万分の1地形図の各辺を40等分した方眼をかけ、各方眼の周辺を切る水系の数を読み、4区画ずつ合計して区分した。

谷密度の低い地域は各河川下流沿岸に分布する低地、旧塩田などの埋立地、すなわち、住吉川・亀水川・青海川などの氾濫原、生島・亀水・木沢・乃生各湾頭の旧塩田に見られる。また、厚く安山岩類に覆われた溶岩台地の山腹や山頂平坦面にも谷密度の低い所がある。さらに、串の山西南にある下位台地も谷密度が低い。

谷密度の高い地域は本島・直島など開析が進んだ花崗岩類の山地・丘陵地、集塊岩・凝灰岩が比較的厚く露出する溶岩台地の周辺部などに集中している。

香川大学教育学部 高 桑 紘

(岡山県側)

児島半島の水系は、次のような方法で抜き出した。5千分の1国土基本図を用いあわせて空中写真を参考にしながら、水系と認められるものを判読して、それを5万分の1地形図で等高線に凹みが表現されない程度に不明瞭なものは省いた。

谷密度は水系図に各辺を40等分した方眼をかけ、各方眼の周辺を切る谷の数を

かぞえ、それを4区画ずつ合計した数であらわした。したがって海岸が方眼にかかるところや方眼内に収まってしまう島嶼では、谷密度は低く表現されるきらいがある。平野部については、用水路や池沼などとして水系図に記入されているが、開折谷に関連する意味をもたないと判断されるものは谷密度には算入していない。(以下山地・丘陵地名はⅠ地形分類の項による。)

児島半島は、孤立した山地であり、しかも河流は四方に流れ出し、集水域は寸断され、大きな河川の発達をみていない。仙随・由加山地の白尾に源を発して、児島湾に注ぐ加茂川(鴨川)が最も集水面積が広い。ここでは谷頭侵蝕が南に及んで王子ヶ岳山地に達し、分水界は著しく南偏している。加茂川は三堀付近で谷幅を広め、次第に河床を高くして、長尾以下では河底高度は谷底平野面とほぼ同高であるが、植ヶ原(岡山南部図幅)では天井川の様相を呈するところがある。

花崗岩よりなる山地・丘陵地と、主として流紋岩よりなる山地との間には、明瞭な谷密度差が認められる。玉野丘陵地と王子ヶ岳山地とは、谷密度の大きい地域で一般に50前後の数値を示す。これに対して流紋岩よりなる小起伏山地では、仙随・由加山地で40前後、龍王・石鉄山地では40を越すところもあるが、一般に30前後である。花崗岩地域と流紋岩山地との谷密度の差は地形形成にかかわる地質条件の意義を示している。花崗岩地域では、断層や割れ目に沿って適従谷が発達し、支流と本流が直角に交わるものが多い。支流では短小な谷が発達して、斜面を細かく分っている。また、構造に支配された直線状の谷が交叉している。杵原一馬ノ子池一渋川、天玉池一瓶割池一日比製練所、玉原一御野越一日比、赤松池一大池一玉、国道30号線の谷、国鉄宇野線の谷、天王池一長尾峠一玉原、馬ノ子池一瓶割池一大池一和田など、通谷をつくっている。

児島丘陵地の谷密度は20~46で、バラツキが大きいのは、標高100 m以下の花崗岩の小起伏丘陵地で短小な水系が多く、また小田川と下村川の谷底低地が含まれているからであろう。

下津井丘陵地は花崗岩地域の水系の特徴を示し、海岸にかかると方眼が多いので谷密度はやや低く表現されているが、25前後から40を越えるところまでである。

岡山大学教育学部 高 橋 達 郎

Ⅵ 防 災

(香川県側)

防災図には人工のものを含む崖、山崩れ地点、砂防指定地、流路工、砂防堰堤工河床勾配の遷移点、防潮堰堤、防潮水門、雨量観測所、重要水防区域、大雨による湛水地域、おもな宅地造成地および採石場密集地などを図示してある。

本地域には海食崖や溶岩台地における造崖層下の崖など自然の崖のほか、道路建設による人工の崖が五色台への登山路である県道鴨川五色台線、主要地方道の高松王越坂出線、有料道路の五色台スカイラインなどの主要道路に沿って分布している。また、花崗岩・花崗土の採掘や宅地造成による崖も丸亀市本島の屋釜付近、坂出市与島・小与島・櫃石島の各所、高松市神在川窪町付近、直島北部などに見られる。

山崩れとして各市町が報告している地点は少なく、丸亀市本島に5箇所、高松市域に5箇所あるにすぎず、その位置・標高・面積・崩壊方向などを表示した。

砂防指定地は高松市の住吉川・亀水川、坂出市の大屋富川・青海川、丸亀市本島の小坂川などにあり、小坂川には流路工もある。

また、おもな河床勾配の遷移点は住吉川で桑崎付近、亀水川で海拔100m付近、大屋富川で海拔20m付近に見られる。

この地域は昭和21年12月21日の南海地震による地盤沈下で大雨の際に湛水する地域が拡大し、各市町は防潮水門や排水施設を整備した。防潮水門は高松市で香西北町平賀下・亀水町の亀水川河口・同町弓弦羽、坂出市で王越町木沢と同町西脇・大屋富町新地・同町川南・青海川下流の梅吉と沖・林田町大番・雌山北麓、丸亀市本島の甲生・笠島・大浦とその西方などに設けられ、大浦海岸には防潮堰堤が造られている。

雨量観測所は坂出市王越町東分と丸亀市本島町泊にあるが、直島の三菱精錬所でも気象観測を実施している。

重要水防区域は住吉川と亀水川の下流沿岸に設定されたが、大雨による湛水地域は高松市で香西北町平賀下付近(約2ha)、坂出市で王越町木沢付近(約12ha)・同町乃生付近(約12ha)・青海川下流沿岸(約100ha)・雌山西麓(約70ha)、丸亀市本島で新在家(約6.5ha)・大浦(約6.6ha)・福田(約2.5ha)、牛島の小

浦（約2ha），直島町の本村付近（約4ha）などにある。

山腹を平坦化した宅地造成地は高松市神在川窪町や直島などに多い。

花崗岩の採石場が密集しているのは坂出市の与島・小与島を始め，同市樞石島，丸亀市本島の屋釜北東方，直島町の京の山北部，同町喜兵衛島北東部などにある。

これらの地域は防災上とくに留意すべき地域であろう。

香川大学教育学部 高 桑 札

地 す べ り ・ 山 崩 れ の 表				
番号	位 置	標 高 (m)	面 積 (ha)	崩 壊 方 向
高 松 市				
1	中山町桑崎南方	160	0.1	東北東
2	串の山北西斜面	120	0.5	北 西
3	〃 南麓	40	0.1	南
4	青峰東斜面	200	0.3	東
5	香西西町	30	0.1	東
丸 亀 市				
1	本島町笠島北東	20	0.05	北 西
2	〃 〃 北西	10	0.01	北 東
3	〃 小坂東方	15	0.05	南
4	〃 南方	20	0.03	東
5	〃 生の浜北方	25	0.05	南

(岡山県側)

この地域は年間雨量1,200 mm程度と少なく，典型的な瀬戸内式気候となっており台風等による災害も殆んどないところである。

しかしながら地域の大半は丘陵部であり，急激な都市化現象により土採取，宅地造成が盛んであるため，山地は著しく荒廃し，利用形態は大きく変化している。

このため，玉野市東南部の宇野，玉，日比の背後丘陵及び倉敷市の呼松港以北の丘陵地帯が宅地造成等規制法による指定地になっている。

また河川は一級河川はなく砂防河川が殆んどである。全般に山が浅く，川中，流

域面積ともに小さいが、流域の土質が花崗岩質であるため保水力に乏しく、土砂の流出量が多く、河川の機能は低下しており、砂防堰堤の築造、山地溪流の浸蝕防止工の整備が望まれる。

重要水防区域はないが、連続雨量 150 mm 想定時における氾濫区域を図示した。

地すべり指定地区はないが、急傾斜地の崩壊による災害の防止に関する法律に基づく指定区域が倉敷市下津井、阿津、玉野市日比、玉にある。

この地域には大きい河川がなく農業水利はもっぱらため池に依存しているため、倉敷、玉野両市で 791 箇所のため池があり（県全体の 9.3 %）このうち老朽ため池が約半数の 402 箇所ある実状である。

昭和 47 年 9 月 19 日正午ごろ、倉敷市児島唐琴地区の山中にある二つの老朽ため池の堤防が相次いで決壊、濁流が鉄砲水となって下流の唐琴 2 丁目の市街地に流れこんだ。この濁流で民家など 7 棟が全壊流出したほか約 240 世帯が半壊、浸水などの被害を受けた。

原因は 3 日前の台風 20 号の豪雨で上流の中池が満水になっていたが、山中であるため気が付かず、破堤しその水勢で番頭池の堤防も崩れ約 6 万 t の水が市街地に流出したもので共に老朽度のひどいものであった。

農業の停滞による溜池管理体制の弱体化がおもいおこされるとともに、今後の管理の万全と改修の促進が望まれる災害であった。

その他、防潮堰堤、水門等を図示した。

岡山県企画部土地対策課 仁 木 義 雄

山 崩 れ の 表				
番 号	位 置	標 高(m)	面 積(ha)	崩 壊 方 向
	倉 敷 市			
1	王子ヶ岳北方	146	0.1	北
2	児島阿津2丁目砂池東方	108	0.1	西南西
	玉 野 市			
1	玉野ゴルフ場西方	158	0.1	北 東
2	和田6丁目大池北方	110	0.2	西南西
3	瓶割池北方	134	0.2	西南西
4	瓶割山北方	130	0.4	北
5	瓶割砂防堰堤西方	110	0.1	南南東
6	小天王池南方	120	0.1	北
7	〃 南西方	130	0.7	西
8	上池南方	126	1.5	西北西
9	矢出山北東	140	0.4	西
10	新割山北方	180	0.2	西北西

Ⅶ 開 発 規 制

(香川県側)

開発規制図には国立公園・風致地区・国有林・保安林・鳥獣保護区・海岸保全区域・史跡・天然記念物・埋蔵文化財・市街化区域・市街化調整区域などを図示してある。

この地域には昭和9年に設置された瀬戸内海国立公園が広い範囲を占め、五色台・王越山・紅の峰の大部分、神在鼻付近、櫃石島の大部分、小裸島・室木島・岩黒島・羽佐島・瀬居島・三つ子島・長島・弁天島・向島・本島・牛島のほぼ全域、与島の南部、番の州で陸続きとなった沙弥島・瀬居島の大部分、大植島・小植島・荒神島・葛島・下鳥島・上鳥島・松島・安野島・杵島・屏風島・喜兵衛島・京の上藪島・局島・六郎島・家島の全域、直島の南部などがこれに含まれている。

風致地区では高松市香西北町に芝山風致地区がある。

国有林は五色台スカイラインの東側斜面にあり、その北部は潮害防備保安林である。また、紅の峰の東岸と西北岸および神在鼻付近の国有林は魚つき保安林になっている。さらに、紅の峰西斜面・勝賀山北斜面にも国有林がある。

乃生岬付近・宮の鼻付近・大崎鼻東側斜面・荒神島の大部分・葛島の大部分・直島の串山と揚島などにも魚つき保安林が分布する。飛砂防備保安林は直島のオカメノ鼻西北方と串山東方の小範囲に見られる。土砂流出・土砂崩壊防止保安林は本島の高無防山や南部山地の山頂部、直島北部山地の大部分とその北方にある寺島の全域、直島南部の各ため池付近の小範囲に存在する。

鳥獣保護区は五色台の大部分を含む地域に設定されているが、その中心部の阿弥陀越付近に特別地区が昭和50年に定められた。

海岸保全区域は農林省関係が櫃石島・向島・本島東北部・牛島東部・瀬居島東南部・坂出市大屋富町新地付近・直島南部の串山東南方・京の山の南方、運輸省関係が本島の大浦付近・小坂付近・泊付近・甲生南部、牛島の里付近、与島東北部、五色台北方の生島湾・中磯・平賀下付近、直島の納言様付近、家島西部、建設省関係が丸亀市本島町福田の海岸、直島町家島北部の海岸など各所にある。

県指定の天然記念物には高松市中山町の一瀬神社社叢と坂出市与島町小与島のサ

サユリ群生地があり、県指定史跡には同市沙弥島の千人塚がある。また、国の史跡としては丸亀市本島町の塩飽勤番所跡が昭和45年に指定された。その他各地に石器・土器の出土地や散布地、古墳などが広く分布しており、坂出市では市の史跡に指定しているものも少なくないが、これらはその種別・名称・所在地を市郡別に表示してある。

市街化区域は坂出市の旧塩田や番の州埋立地など、市街化調整区域には大槌島・小槌島を除く高松市域、王越山周辺を除く坂出市王越町・大屋富町・青海町・林田町・瀬居町および沙弥島などが含まれている。

香川大学教育学部 高 桑 札

史跡・名勝・天然記念物・遺跡などの表			
番号	種 別	名 称	所 在 地
高 松 市			
1	古墳（円墳）	住吉神社古墳	神在川窪町，川窪
2	“（”）	白骨古墳	“，”
3	“（”）	弾正原古墳	“，弾正原
4	県天然記念物	一瀬神社社叢	中山町，尾路
5	古墳（前方後円墳）	横立山古墳	“，横立
6	“（円墳）	原経塚古墳	“，原
7	“（”）	桑崎古墳	“，桑崎
8	城址	勝賀城址	勝賀山頂
9	古墳（前方後円墳）	かしが谷古墳	鬼無町，佐料
10	寺院跡	勝賀寺跡	香西西町，奥の堂
11	烽火場跡	烽火場跡	亀水町，大崎山
坂 出 市			
1	古墳址？	すくも塚	櫃石島，北浦通
2	祭祀址？	ぜにかみ石	“，四望眺
3	散布地（石器）	馬石遺石	“，”
4	石層塔	石の塔	“，しゃかのもと
5	散布地（石器）	とびの巣遺跡	“，とびの巣

番号	種 別	名 称	所 在 地
6	散布地（石器）	宮崎遺跡	櫃石島，宮の鼻
7	出土地（師楽）	大浦浜遺跡	“ ，大浦浜
8	市史跡（横穴）	せきの浦古墳 1.2号	“ ，たてわ山
9	祭祀址	櫃岩	“ ，長崎鼻
10	市史跡（古墳址）	長崎鼻古墳址	“ ， “
11	“ （ “ ）	歩渡組合石棺群	“ ，歩渡島
12	散布地（石器）	羽佐島遺跡	与島町，羽佐島
13	市史跡（石棺・列石）	与島長崎鼻遺跡	“ ，長崎鼻
14	散布地（石器）	与島西山遺跡	“ ，西山
15	“ （ “ ）	与島東山遺跡	“ ，東山
16	出土地（師楽）	大州浜遺跡	“ ，大州浜
17	“ （ “ ）	与島みなと遺跡	“ ， “
18	市史跡（石器）	城の鼻遺跡	“ ， “
19	出土地（師楽）	小与島師楽遺跡	“ ，小与島
20	県天然記念物	ササユリ群生地	“ ，小与島東斜面
21	散布地（石器）	小与島遺跡	“ ， “ 南斜面
22	出土地（縄文・師楽）	なかんだ遺跡	沙弥島，北通
23	市史跡（横穴）	白石古墳	“ ，白石
24	散布地（石器）	白石遺石	“ ， “
25	市史跡（城址）	城山城址	“ ，城山
26	出土地（師楽）	西の浜遺跡	“ ，西の浜
27	“ （ “ ）	みなと遺跡	“ ，港
28	市史跡（横穴）	沙弥古墳群 1～3号	“ ，吉野山
29	“ （方墳）	千人塚	“ ，南通
30	散布地（石器）	十の石遺跡	瀬居町，山頂
31	出土地（師楽）	呑齋遺跡	“ ，本浦
32	市史跡（石棺）	大崎山遺跡	王越町，大崎山
33	“ （古墳址）	大崎山古墳址	“ ， “

番号	種 別	名 称	所 在 地
34	市史跡（円墳）	木沢ちょう塚跡	王越町，木沢
35	“（寺跡）	しょうず庵寺跡	“，乃生
36	散布地（石器）	たんべ池遺跡	“，”
37	“（”）	来峯遺跡	大屋富町，北峯
38	市史跡（円墳）	すべり山積石塚	“，”
39	“（横穴）	土岳古墳	“，”
40	“（”）	中村古墳	青海町，中村
41	市天然記念物	向神社クロマツ アベマキ寄り木	“，”
42	市史跡（円墳）	雌山積石塚	林田町，雌山
	丸 亀 市		
1	古墳（円墳）	小坂第2号墳	本島町，小坂
2	“（”）	小坂第1号墳	“，”
3	経塚	寺山経塚	“，泊
4	“	旗坂経塚	“，”
5	古墳（円墳）	亀山古墳	“，甲生
6	城址	笠島城址	“，笠島
7	古墳（円墳）	笠島東山古墳	“，”
8	“（”）	向島古墳	“，向島
9	散布地（師楽）	向島遺跡	“，”
10	国史跡	塩飽勤番所跡	“
	香川郡直島町		
1	祭祀址（弥生～奈良）	荒神島遺跡1	荒神島，北岸
2	出土地（師楽）	荒神島遺跡2	“，東岸
3	古墳（石棺）	荒神島古墳	“，北部
4	“（群墳）	葛島古墳1	葛島，東南部
5	“	葛島古墳2	“，東北部
6	出土地（師楽）	喜兵衛島遺跡	喜兵衛島，南岸
7	古墳（群墳）	“ 古墳	“，西部

番号	種 別	名 称	所 在 地
8	古墳（横穴）	京の上藤島古墳 1	京の上藤島，西北端
9	“（円墳）	京の上藤島古墳 2	“，東北端
10	出土地（石器）	家島遺跡	家島，西岸
11	“（師案）	直島遺跡 1	京の山西南麓
12	“（ ” ）	直島遺跡 2	串山東方
13	“（ ” ）	直島遺跡 3	串山東北方

（岡山県側）

この地域は、全域、岡山県南広域都市計画区域に属し、鳥しよ部を除いて市街化区域、市街化調整区域の線引きがなされている。

国立公園は昭和 9 年に設置された瀬戸内海国立公園が広く分布しており、王子ヶ岳、由加山、鷲羽山及び竜王山の大部分並びに鳥しよ部の全域が特別地区に、高島及び竜王山の一部が普通地区に指定されている。

都市公園としては、玉野市の深山公園、玉原公園、倉敷市の中山運動公園がありその他児童公園等は省略した。

保安林は、土砂流出防備林が玉野市の市街化調整区域の殆んど全域と倉敷市の仙随山の南麓一帯、鷲羽山の国立公園地区、鷲羽山スカイライン沿線一帯に、魚付き保安林が六口島・堅場島・松島の鳥しよ部と高室港の南北にある。

鳥獣保護区は、玉野市では県道岡山玉野線、国道 30 号、県道塩生玉野線、槌ヶ原日比線で囲まれた区域、倉敷市では阿津 1 丁目と高室港を結ぶ道路以南、六口島全島、由加山一帯が指定されている。

また、そのうち由加山一帯と深山公園の一部は特別保護地区に指定されている。

国有林は、石鉄山の東方と六口島にある。

海岸保全区域は、各省所管にわたって広く全域に設定されている。

国指定天然記念物は、六口島の象岩、名勝は鷲羽山、王子ヶ岳がある。その他、この幅員全域にわたって石器時代から江戸期に至るまでの土器、石器、古墳等の文化財の散布地やさまざまな史跡がある。

岡山県企画部土地対策課 仁 木 義 雄

史跡・名勝・天然記念物・遺跡などの表

番号	種 別	名 称	所 在 地
	倉 敷 市		
1	古墳	中住古墳	由加
2	包含地	高山遺跡	上之町
3	散布地（土師器）	高辻遺跡	〃
4	包含地	大池北遺跡	〃
5	〃（土師器）	大池南遺跡	〃
6	〃	積泉池遺跡	〃
		池尾遺跡	〃
		内田東邊慰	〃
		内田西遺跡	〃
7	散布地	滑遺跡	稗田
8	窯址	宇野津焼窯址	児島宇野津
9	城址	本太城址	児島塩生
10	古墳（円墳・ハニワ）	天神山古墳	〃
11	包含地（師楽式土器）	金浜遺跡	〃
12	散布地（石器・石片）	金浜上遺跡	〃
13	〃（ 〃 ）	王子ヶ岳山頂遺跡	児島唐琴町
14	〃（ 〃 ）	〃 浜遺跡	〃
		〃 古墳	〃
15	〃（ 〃 ）	岩滝山遺跡	児島田の口
16	古墳（箱式石棺）	ホネコツサマ古墳	児島唐琴町
17	〃（横穴式石室）	エビス谷古墳群	児島唐琴町・児島田の口
18	〃（ 〃 ）	四つ塚古墳群	児島田の口
19	〃（前方後円墳）	丸山古墳	〃
20	散布地（石器・土器）	鵜石鼻遺跡	児島唐琴町
21	〃（石片）	仙隨山遺跡	児島田の口
22	〃（石片・石鏃）	三池遺跡	〃
23	〃（土器・石器・石片・石鏃）	明石丸山古墳	児島田の口・児島下之町
		琴浦向山遺跡	〃
		葛谷遺跡	〃

番号	種 別	名 称	所 在 地
24	包含地（土器・石片・師 楽式土器）	琴浦堀江遺跡	児島下之町
		鴻八幡宮東遺跡	〃
		鴻八幡宮西遺跡	〃
		鴻八幡宮馬場遺跡	〃
25	散布地（石片）	萱苅遺跡	〃
26	包含地	木野山神社遺跡	児島小川
		中山野球場北遺跡	〃
		小川平田	〃
27	〃	長原遺跡	児島味野上
		焼山遺跡	〃 味野城
		城遺跡	〃 〃
28	〃	味野仁伍遺跡	児島味野
29	散布地（石器・石片）	竜王山遺跡	〃
30	城址	神水城址	〃
31	包含地（土器）	阿津走出遺跡	児島阿津
32	〃	赤崎新庄八幡宮遺跡	児島赤崎
33	〃	菰池遺跡	菰池
34	古墳（横穴式石室）	琴海古墳群1号	大島
35	〃（ 〃 ）	〃 2号	〃
36	散布地（石片）	吹上トンコ山遺跡	下津井吹上
37	〃	吹上山田遺跡	〃
38	城址（県指定）	下津井城址	〃
39	包含地（師楽式土器）	古下津井遺跡	下津井
40	名勝	鷲羽山遺跡	下津井，大島，田之浦
		鷲羽山東麓古墳群	大島
		鷲羽山古墳群	下津井，田之浦
		大浜遺跡	大島
		大島越台場跡	下津山，田之浦
41	火葬墓	堀切唐臼火葬墓	下津井
42	散布地（石器・石片）	灯籠崎遺跡	〃
43	台場	田之浦台場跡	〃

番号	種 別	名 称	所 在 地
44	台場	祇園下台場跡	下津井
45	〃	西之脇台場跡	〃
46	城址	古下津井城址	〃
47	包含地（縄文・弥生・師 楽式土器）	堅場島海岸遺跡	堅場島
48	〃	堅場島岳上遺跡	〃
49	散布地（石器・石片）	釜島東岳上遺跡	釜島
		釜島東古墳群	〃
50	包含地（師楽式土器）	釜島北の浜遺跡	〃
51	散布地（石器）	釜島北岳上遺跡	〃
		釜島北古墳	〃
52	〃（〃）	釜島西岳上遺跡	〃
53	〃（〃）	釜島中岳上遺跡	〃
54	〃（〃）	釜島南岳上遺跡	〃
		釜島南古墳群	〃
55	包含地（師楽式土器）	釜島東の浜遺跡	〃
56	散布地（石器・石片）	松島遺跡	松島
57	古墳（横穴式石室）	溝落谷古墳群	児島塩生
58	〃（〃）	馬乗場古墳群	〃
59	包含地（師楽式土器）	塩生遺跡	〃
60	散布地（石鏃・土器）	高島北の鼻遺跡	〃
		高島北の鼻古墳	〃
61	古墳（横穴式石室）	高島荒神古墳	〃
62	散布地（石片）	高島エビス鼻遺跡	〃
		高島エビス鼻古墳群	〃
63	〃（〃）	高島東遺跡	〃
64	〃（〃）	高島南遺跡	〃
65	古墳（横穴式石室）	横山古墳群	〃
66	包含地（師楽式土器）	通生遺跡	児島通生
67	散布地（土師器）	本荘八幡宮遺跡	〃

番号	種 別	名 称	所 在 地
68	散布地（石器・石片）	通生宮ノ鼻遺跡	児島通生
69	“（石片）	湊岬遺跡	“
70	包含地（師楽式土器）	大室遺跡	下津井
71	散布地（石片・石器）	灯籠崎西遺跡	“
72	“（石片）	細濃地島遺跡	細濃地島
73	“（ ” ）	上濃地島遺跡	上濃地島
74	包含地（土器・石器）	六口島茶屋鼻遺跡	六口島
		六口島茶屋鼻古墳	“
75	古墳（箱式石棺）	六口島二番谷古墳群	“
76	包含地（土器・石器）	六口島柳谷遺跡	“
77	“（師楽式土器）	六口島大首遺跡	“
78	“（土器・石器）	六口島西の浜遺跡	“
		六口島西の浜上遺跡	“
79	“（師楽式土器）	六口島二番谷遺跡	“
80	採石地跡	大阪城採石場跡	“
81	天然記念物（国指定）	象岩	“
82	“（市指定）	田の口荒神楠	児島田の口
83	宝塔（県指定）	総領寺跡宝塔	児島下之町
84	灯明台（市指定）	旧野崎浜灯明台	児島味野
85	石仏（県指定）	田之浦延命地藏	大畠
86	井戸（市指定）	下津井共同井戸群	下津井
87	“（ ” ）	杓井戸	“
88	天然記念物（市指定）	般若院の椿	児島通生
89	鳥居（国指定）	本荘八幡宮鳥居	“
	玉 野 市		
1	散布地（鉄剣・弥生式土器）	滝遺跡	滝
2	“（弥生式土器 須恵器・古墳）	栃原遺跡	永井
3	名勝	王子ヶ岳	波川
	散布地（石器 縄文弥生式土器）	王子岳遺跡	

番号	種 別	名 称	所 在 地
4	(弥生式土器・和鏡 土師器・寺院跡)	菅井遺跡	長尾・菅井
5	(弥生式土器 石鏃・シスト古墳)	長尾遺跡	長尾
6	(弥生式土器・石器)	玉原遺跡	玉原
7	(弥生式土器 土師器・石器)	神登山遺跡	日比
8	(石器・弥生式土器 師楽式土器)	宮田山遺跡	波川
9	(旧石器)	宮山遺跡	日比
10	(石器・弥生式土器 師楽式土器)	向日比遺跡	向日比
	城址	四宮城址	
11	(弥生式土器 須恵器・古墳)	地藏山遺跡	和田
12	(縄文式土器 弥生式土器・石器)	的場山遺跡	玉
13	(弥生式土器・石器)	茶ドラ山遺跡	玉
14	()	天狗山遺跡	田井
15	(縄文・弥生式土器 須恵器・はにわ・ 石器・古墳)	高辺山遺跡	築港
16	(弥生式土器・師楽 式土器・石器・古 墳)	先丁場遺跡	田井
17	(縄文式土器・弥生 式土器・石器)	日の出遺跡	築港日の出町

1976年3月 印刷発行

瀬戸内海観光施設整備地域
土地分類基本調査

玉 野

編集発行 香川県企画部企画調整課
高松市番町4丁目1番10号

印刷 (地図) 内外地図株式会社
東京都千代田区神田小川町3-22
(説明書) 株式会社 美 巧 社

高松市多賀町1丁目8-10